

脱着式 ホワイトボードの 使い方



1 ミーティングしながら、ホワイトボードに書き込みよう。



2 書き込んだホワイトボードは壁に取り付けられる。



3 皆で順にミーティングの内容を発表しよう。

図書館2階に新しくオープンした「ラーニング・commons」は、最近学内でニーズの高まるアクティブラーニング向けのスペースとして設置された。図書館に属する施設だが、ここでは会話OK。プレゼンテーション、ディスプレイ、グループ学習、講習会、会議、打ち合せなどを想定した施設となっている。設備類もそのニーズに沿ったもの。机、いすは可動式になっており、自由に組み替えて、時々のグループ構成に応じたかたちをつくることのできる。ほかには着脱・分割ができるホワイトボードや、便利なノート機器も配備。写真(右)は、専用のペンで手書き入力した文字などをパソコンに取り込むことができるタッチディスプレイである。

アクティブラーニングのために
新しいスペースがオープン

だれが使ってもいい施設
友達同士の自主学習などにおすすめ



[text: 木下 由純]

予約可能な備品等

- 貸出しノートパソコン
- 80インチタッチディスプレイ
- プロジェクター
- ホワイトボード

ラーニング・ commonsの利用方法

予約の入っていない時間帯なら、誰でもいつでも自由に利用することができます。貸切にしたい場合は、ご予約ください。

利用時間

平日…9:20~19:20/土曜…9:20~16:30

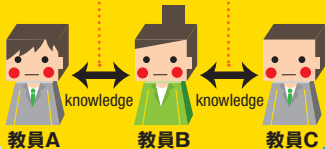
予約方法

図書館のカウンターにある申込書を記入し、ご提出ください。※一か月前から予約可能

予約可能人数 8人以上▶半室
16人以上▶全室

教育開発センター

個々の教員の授業
改善方法を全教員が
共有するためのサポート



断じた情報を共有の仕組みを構築する。さらに

随時行う学生インタビュー

現状では必ずしも授業に関する情報の共有は進んでいない。そこで、センターが中心となって成果があがっている授業を発掘し、その運営方法などについて、学部を横断した情報を共有の仕組みを構築する。さらに随時行う学生インタビュー

同センターには、もう一つの大きな狙いがある。充実した学習を実践している学生にリーダー教育を施し、ステューデントアシスタント(SA)として授業の場で活動させることである。たとえば、グループ討論を行いたい場合でも、教員1人では十分にかかわれないことも多い。授業をサポートするSAが、上級生の立場からファシリテーター(仲介者)として議論を盛り上げるなど、活躍の幅は広く想定できる。また、上級生から指導を受けることで、新たな刺激を得て、より授業が活性化される効果も期待できるだろう。

学生の手で授業を盛り上げたい

大学全体の授業の
質的向上をめざす研究助言機関

大学教員の授業改善を計画的に推進していくための研究助言機関として「教育開発センター」が今年4月に発足した。

受け身教育といわれ続けて久しい日本の大学教育。あらゆる場面で劇的な変化が起こっている社会情勢に伴い、大学に求められる教育も変わっている。そこでセンターが、大学の教育と授業を研究し、学生にとってよりよい授業が実現できるよう改善を押し進めていく役割を担う。

ビュージャ、FDとの連携も図り、学生目線でのニーズを探るとともに、これまで届かなかった学生の声を積極的に吸い上げていく。

今年度末には、工夫が認められる授業を項目ごとにピックアップした「授業改善ハンドブック」の発行を予定。教員個々の授業改善の方法を全教員が共有することをうながす。

教育開発センター

CENTER FOR RESEARCH AND DEVELOPMENT OF EDUCATION



教育開発センター
センター長
鋒山 泰弘
(心理学部・教授)



教育開発センター
山本 堅一 研究員

— 教員・職員の皆様へのお願い —
教育開発センターでは、学生への学習効果の高い授業についての情報を募集しています。自薦・他薦を問いませんので、是非下記アドレスまでご連絡ください。

応募・お問い合わせ
yama-k@res.otemon.ac.jp

[text: 難波 亮祐]